総合防除（ＩＰＭ）を行うために利用できる防除技術（花き）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 作物名 | 病害虫名 | 防除技術 |
| 花き類 | 病害虫全般 | １　前作の作物残さの処理（施設における蒸し込み，残さの焼却，埋却処理等）を行う。２　ほ場内や周辺の除草を行い，ほ場衛生に努める。３　土着天敵に影響の少ない薬剤を使用し，密度抑制を図る。４　防除資材を活用する(別表参照)。 |
| きく | 白さび病 | １　病気に強い品種を選ぶ。２　発病している親株からは採穂しない。３　発病苗は利用しない。４　発病葉は摘み取り，焼却する。５　施設内換気を行い，多湿を防ぐ。６　マルチを利用する。※露地では，梅雨期や秋雨後の発生が多い。 |
| キクえそ病（ＴＳＷＶ）キク茎えそ病（ＣＳＮＶ） | １　ウイルスの感染が疑われる苗は，廃棄する。２　媒介虫であるミカンキイロアザミウマを防除する。※別表「防除資材」の項を参照する。 |
| 黒斑病 | １　下葉をかき取り，通風を良くする。２　発病している親株からは採穂しない。 |
| 灰色かび病 | １　窒素肥料の多用を避ける。２　排水と通風を良くし，多湿を避ける。３　発病した茎葉や花は摘み取り，焼却する。 |
| オオタバコガハスモンヨトウ | １　幼虫は見つけしだい捕殺する。２　施設栽培では開口部を目合い４mm程度の防虫ネットで被覆し，成虫の侵入を防止する。３　黄色防蛾照明技術を利用する。その場合，作物全体に黄色光（１～３ルクス）を照射し，陰になる部位ができないように注意する。 |
| ばら | うどんこ病 | 換気と暖房による施設内の適正な温湿度管理に努める。 |
| 黒星病 | 発病した葉や枝及び落葉は除去し，焼却する。 |
| べと病 | 温風機や除湿機の利用等により，湿度を下げる。 |
| ハダニ類 | 　高温，乾燥にならないようにする。 |
| りんどう | 褐色根腐病 | 排水対策を十分に行う。 |
| 茎枯病 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 作物名 | 病害虫名 | 防除技術 |
| トルコギキョウ | 葉巻病 | １　発病株は見つけ次第，除去する。２　残さは埋却処理する。３　ノゲシ，ウシハコベ等雑草にも感染するため除草を徹底する。４　媒介虫であるタバココナジラミを防除する。また，施設内への侵入を防ぐ。※別表「防除資材」の項を参照する。５　栽培終了後は作物が完全に枯死するまで施設を密閉して，タバココナジラミの施設外への脱出を阻止する。 |
| えそ輪紋病 | １　発病株は見つけ次第，除去する。２　媒介虫であるネギアザミウマを防除する。また，施設内への侵入を防ぐ。※別表「防除資材」の項を参照する。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 別表　防除資材 |  |  |  |
| 対象病害虫 | 資材の種類 | 使用方法 | 効果 |
| アザミウマ類ハモグリバエ類 | 防虫ネット(目合い0.8mm以下） | 育苗床被覆施設入口，換気部被覆 | 侵入防止 |
| 近紫外線除去フィルム | ハウス被覆 |
| アザミウマ類 | 光反射マルチ | 畝，通路面被覆 | 飛来抑制 |
| 粘着シート，粘着テープ（青または黄色） | （粘着シート）株元，草冠部に被覆（粘着テープ）　施設周辺に張り巡らす | 大量補殺早期発見 |
| ハモグリバエ類コナジラミ類 | 粘着シート，粘着テープ（黄色） |
| コナジラミ類 | 防虫ネット（目合い0.4mm以下） | 育苗床被覆施設入口，換気部被覆 | 侵入防止 |
| アブラムシ類 | シルバーマルチシルバーテープ | 畝，通路面被覆ほ場周辺に張り巡らす | 忌避 |
| 注　防虫ネットの利用により施設内の気温が上昇する傾向がある。また，光反射マルチやシルバーマルチの利用により地温の上昇が抑制される傾向がある。そのため，作物の生育への影響に注意する。 |